

北海道総合地質学研究センター第21回公開講座（2026年9月12日 土曜日）

北海道教育委員会2026年度前期道民カレッジ講座指定（歴史、教養分野）

後援 札幌市教育委員会

縄文時代の海面上昇と海岸平野の形成 －石狩平野と頓別平野を例として－

縄文時代（約1.6万～3千年前）に生じた海面上昇は縄文海進とよばれています。最終氷期の最も寒い時期（約2万年前）には陸は氷で広く覆われ、海面は現在よりも100 m以上低くなりました。その後は気候の温暖化により氷は溶けて海面は徐々に上昇し、約6千年前には今よりも約3メートル高くなりました。このため、海水は内陸深くにまで押し寄せ、河川水などの淡水と混じりあって広大

な汽水湖が出現しました。海に面する平野（海岸平野）の地下には、前に述べた2万年前以降の海面変化の影響を受けた沖積層（ちゅうせきそう）が堆積しています。

本講座では札幌市周辺の石狩平野と道北・猿払村周辺の頓別平野を例に、私達の生活の場である平野の生い立ちを紹介します。



石狩平野や勇払平野に広がった約6千年前の海域や汽水域（水色部分）（嵯峨山, 2023より）

講師/ 嵯峨山 積（北海道総合地質学研究センター理事、研究員）
北海道出身、北海道大学理学部卒業、博士（理学）

日時：2026年9月12日（土曜日）13：30～15：30（開場 13：00）

会場：かでる2.7 1030会議室（北海道立道民活動センター、札幌市中央区北2条西7丁目）

参加費：1,000円（高校・大学生、当センター会員は半額）

参加定員：50名（先着受付）

申込期限：2026年9月10日まで（定員に余裕があれば前日まで受付）

申し込み・問合せ先：E-mail office@hrcg.jp Tel. 080-5830-2016

主催：特定非営利活動法人北海道総合地質学研究センター（<https://www.hrcg.jp/>）

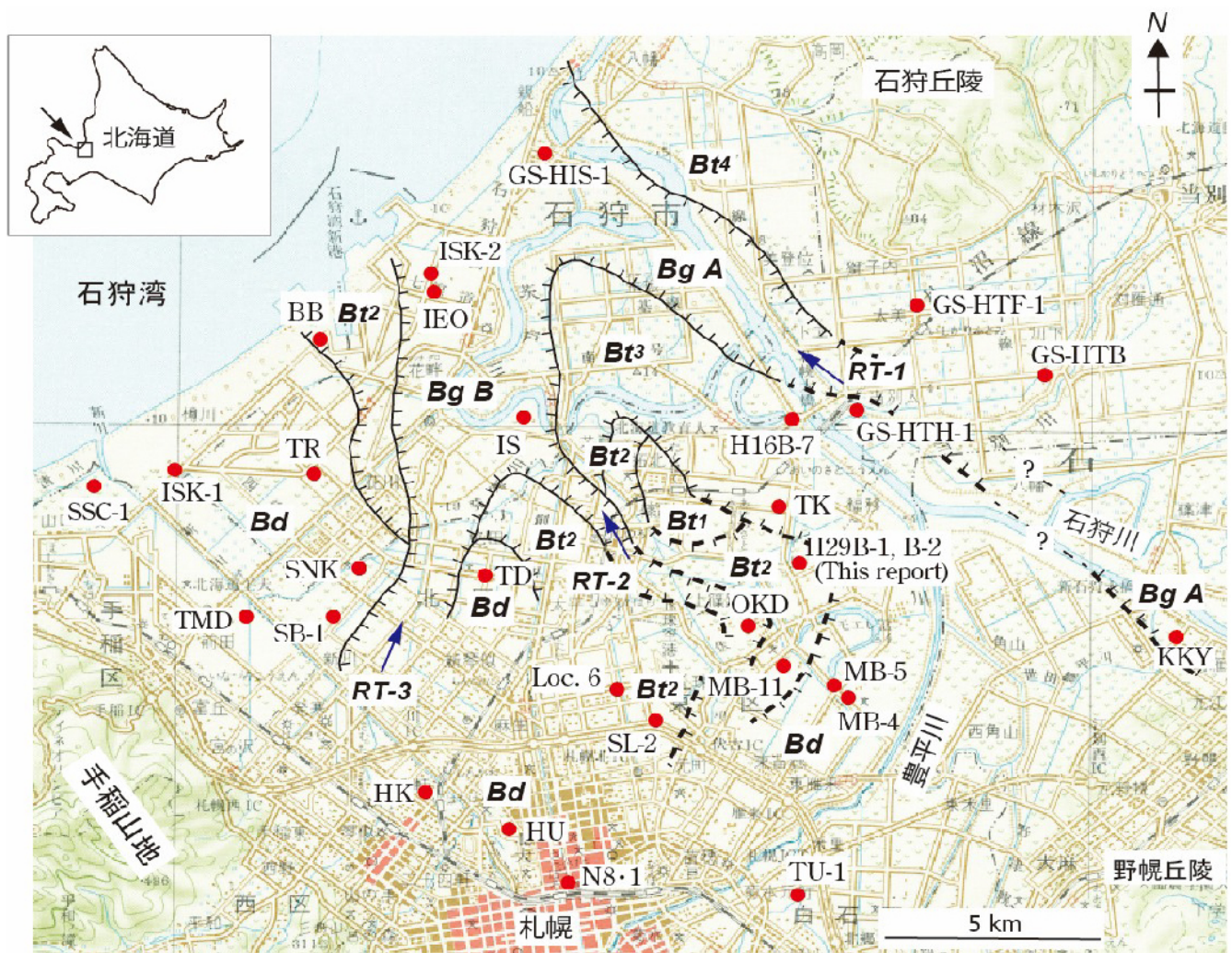
話しの概要

- 1) 海岸平野や沖積層について
- 2) 縄文時代やそれ以前の海面変化

3) 沖積層の研究手法

ボーリングによる地質試料の採取、放射性炭素年代測定や珪藻分析、火山灰分析等による解析

4) 検討例：石狩平野や頓別平野の沖積層の紹介



石狩低地の主なボーリング位置（赤丸），埋没地形面および旧河川跡（嵯峨山ほか，2021）

講師紹介

嵯峨山 積（さがやま つもる）

特定非営利活動法人 北海道総合地質学研究センター理事，研究員

略歴

北海道出身

1974年 北海道大学理学部地質学鉱物学科卒業

1974～2015年度 北海道立地質研究所（現：道総研エネルギー・環境・地質研究所）に勤務
地域地質や浅海地質，沖積層などの調査研究に従事

1982年度 大阪大学に国内研修

1994年度 カナダ・太平洋地球科学センター（Pacific Geoscience Centre）に海外研究

2016～2020年度 酪農学園大学非常勤講師

2021年度～現在 アースサイエンス株式会社技術顧問

著書

日本の地質1「北海道地方」（共立出版株式会社），日本地方地質誌「北海道地方」（朝倉書店）

環境を守るための自然エネルギー読本（東洋出版）（いずれも共著）

北海道総合地質学研究センターでは活動情報をメールマガジン（不定期）で無料配信しています。
購読希望の方はoffice@hrcg.jp宛てにお申込みください。